

発啓災防え交操体

震災
6年



一宮のグループ 11日に新曲披露

東日本大震災の被災地支援の輪を広げようと、約4年にわたって毎月11日にコンサートが続いている一宮市の音楽グループ「音の輪会」が、体を動かしながら、震災の教訓を学べるオリジナルの「防災ソング・ダンス体操」を考案した。震災から6年となる11日、同市の尾張一宮駅前ビルで開くメモリアルコンサートで、初めて披露する。

(沢村宣樹)

音の輪会は、一宮市の夫婦音楽ユニット「Splash」(スプラッシュ)の女性ボーカル安田CAN^{キャナ}NDY^{ンディー}さん(45)が2013年4月に結成。東日本大震災の被災地に何かしたいと考えた時、「自分たちには音楽しかない」と思い立って活動を始めた。毎月11日にはほぼ同じ場所で歌や演奏を披露し続けた結果、音楽に興味のある人たちが次々と集まり、現在は一宮、津島、清須市などに住む20〜60歳代の男女22人へと輪が広がった。

11日に披露するのは、「BOUSAI GENSAI Exercise (防災減災エクササイズ)」。考案したきっかけは昨年春、一宮

歌声や楽器の音色を響かせる「音の輪会」のメンバー(一宮市)

「風化させない」熱く

市のNPO法人「高齢者住まいの研究会」の寺西貞昭理事長の「みんなが防災・減災に興味を持ってくれるような歌を作れないか」という何げない一言だった。音の輪会の活動をきっかけに、安田さんも、防災の知識を身につけたいといけなさと県の防災・減災カレッジを受講中だったため、快諾。寺西さんと安田さんが作詞、安田さんが携帯電話の専用音楽アプリで初めて作曲した。3番までの歌詞、約5分の曲で、みんなが歌ったり、踊ったりできるように聴き取りやすいメロディーを心がけた。

さらに、体を動かしながら曲

も覚えてもらおうと、同市のキッズ向けチャダンス教室の桐山裕美子代表に振り付けを依頼した。

今回のメモリアルコンサートで、活動開始以来48回目を迎える。ほとんどのメンバーが会社員なので、仕事を終えた後に集まるなど、苦勞の連続だった。ライブにこだわらず、自分たちで音響設備を持ち込んだり、観客用の椅子を並べたり。汗がダラダラ流れる暑い日も、凍えるような寒い日も、聴いてくれる観衆に向かって演奏を続けてきた。

夫のギターに合わせて歌う安田さんは、「私たちができることは小さなことだけれど、コンサートを続けることで『被災地への思いを風化させない』『巨大地震が迫る、この地方には防災が必要』ということを訴えたい」と意気込んでいた。

11日午後3時15分から、尾張一宮駅前ビル3階・シビックテラスで行う。一緒に歌って踊る出演者も募集している。参加無料、事前申し込みも不要。

問い合わせは安田さん(090・4218・4466)。

◆BOUSAI GENSAI Exercise (1番)

おおきな地震がくるぞ
もうすぐ地震がくるぞ
わたしの家もやってくるよ
となりの家もやってくるよ
震度7 震度7 無理無理! 動けない!
震度7 震度7 無理無理! 動けない!
やっててよかった 家具固定
やっててよかった 耐震補強
B・S (ビーエス) BOUSAI
G・S (ジーエス) GENSAI
防災 減災 ソナエナサイ!